

大自然に浸る・学ぶ・安らぐ。奥裾花自然園

鬼無里・奥裾花自然園は

長野県が明治百年記念事業として、長野県の代表的な優れた大自然を末永く保護し、みなさまが楽しみながら自然を探勝し学べるように開設された自然園です。

優れた自然景観地域として保護されている裾花川の源流、新潟県との境に位置し、日本の温帯林を代表するブナの原生林にあり、一帯は林野庁の水源の森百選にも選ばれています。園内にはその密生度では本州一といわれる水芭蕉の大群落や数多くの野鳥、クロサンショウウオ、長野県天然記念物指定のモリアオガエルなど多くの小動物が見られる他、手前の奥裾花渓谷には2000万年ほど前に海底に棲んでいた貝類の化石をたくさん見ることができ、長野県名勝指定となっています。

5月中旬ごろまでは、窪地には雪も残っているの足下に注意して散策してください。

◎面積=約122.6ヘクタール

ブナの原生林

このブナ林は、地球上に生物が誕生して以来そのまま歴史を維持している原生林です。現在、わが国にはこのように見事なブナ林は僅かになってしまったため、貴重な財産といえます。ブナ林は温帯の代表的な樹林で、ヨーロッパではブナは母なる木といわれ、豊かな土地を培い、文化を起す大きな役割を果たしてきました。

ここ鬼無里では、かつての村有林や国有林のブナの払い下げを得て製材産業が盛んでしたが、自然が大きく失われてきた現在、市有林122.6ヘクタールを自然園として、また周辺の広大な国有林397.41ヘクタールを風致保護林として大切に保存しています。

このブナ林は、ハウチワカエデ・ハイヌガヤ・エソズリハ・ヒメモチ・チシマザサ・ヒメアオキ・オオバクロモジなどを共生する多雪地帯の日本海側のチシマザサブナ群団に属し、コハウチワカエデ・タンナサワフタギ・コミネカエデ・シロモジ・クロモジ・スズタケ・ミヤコザサなどで特徴づけられる夏や秋に雨の多い太平洋のスタケブナ群団と識別されます。



今池の水芭蕉

ここ奥裾花の秘境に水芭蕉の群生が発見されたのは昭和39年のこと。

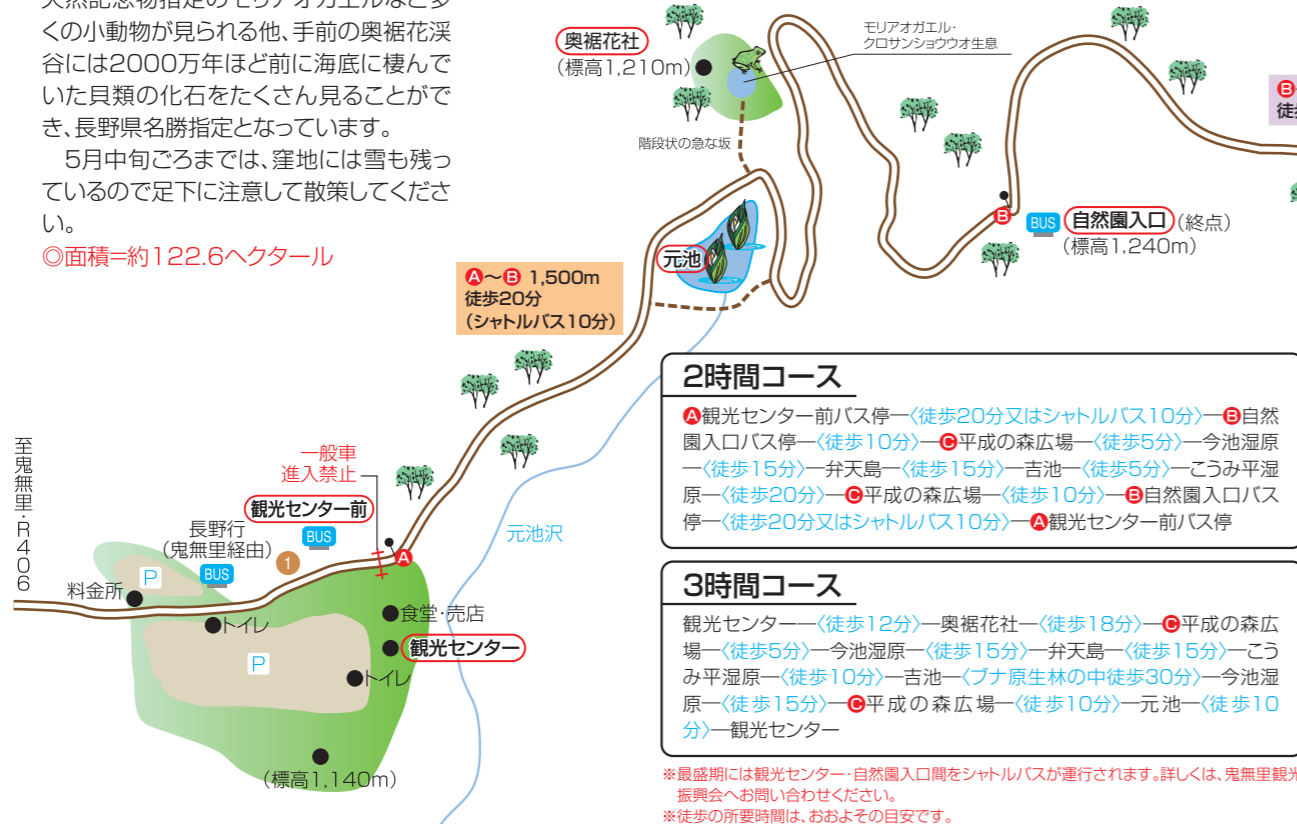
周囲1,000mの範囲に密生しその数はなんと81万本。群生地としては尾瀬などより大きく本州第一を誇っています。5月初旬から6月上旬頃まで、雪解けの後を追って今池湿原・こうみ平湿原一帯に白い清楚な姿を見せてくれます。

花が終わると葉は大きく成長し、夏にはヨシも伸びて湿原全体をすっかり覆いつくします。



奥裾花自然園の巨木群

a	トチノキ	推定樹齢400年	樹高30m	幹周4.6m
b	ブナ	300年	30m	4.18m
c	ミズナラ	350年	26m	3.7m
d	コハウチワカエデ	200年	16m	1.64m
e	シナノキ	350年	28m	3.47m
f	ヤチダモ	350年	26m	2.65m



吉池のイモリ、クロサンショウウオ、モリアオガエル

吉池は密林の中の小池ですが、イモリがたくさん棲み赤い腹を見せます。クロサンショウウオは林下の地上で昆虫を食べて暮らしていますが、5月中下旬には池中にたくさん集まり、水中の枯枝にマユダマのような白い卵嚢をたくさん生みつけます。

モリアオガエルは吸盤を指先の先に持ち、アマガエルのように樹上や草の上に棲み、昆虫を食べてくれています。6月下旬には池畔の枝上に数百の大きな卵塊をつけて見事です。特に池畔のトチノキの大木には地上20m位の高所までたくさんぶらさがり壮観です。



野鳥の大楽園

野鳥は自然の豊かさのパロメーターとされ、自然の女神といわれます。このブナ林には、5月から6月にかけて60数種の鳥が見られます。早朝には鳥種を区別できないほど、一斉に囀り自然の神秘さを充分に楽しませてくれます。その中で珍鳥はクロジ、ニユナイスズメ、ノジコなどです。

探鳥には双眼鏡(8倍程度)と図鑑があれば一層楽しむことができます。

繁殖期出現鳥

1 オシドリ	17 ホトギス	34 コルリ	51 シジュウカラ
2 マガモ	18 コノハズク	35 マミジロ	52 ゴジュウカラ
3 コガモ	19 フクロウ	36 トラツグミ	53 キバシリ
4 トビ	20 ヨタカ	37 クロツグミ	54 メジロ
5 オオタカ	21 アマツバメ	38 アカハラ	55 ホオジロ
6 ツミ	22 アカショウビン	39 ヤブサメ	56 ノジコ
7 ノスリ	23 アオゲラ	40 ウグイス	57 アオジ
8 サシバ	24 アカゲラ	41 メボソムシクイ	58 クロジ
9 キウタカ	25 オオアカゲラ	42 センダイムシクイ	59 カワラヒワ
10 イヌワシ	26 コゲラ	43 キビタキ	60 ウソ
11 ヤマドリ	27 イワツバメ	44 オオルリ	61 イカル
12 キジバト	28 ケセキレイ	45 エゾムシクイ	62 ニユナイスズメ
13 アオバト	29 サンショウクイ	46 コサメビタキ	63 カケス
14 ジュウイチ	30 ヒヨドリ	47 エナガ	64 ハシボソガラス
15 カッコウ	31 カワガラス	48 コガラ	65 ハシブトガラス
16 ツツドリ	32 ミソサザイ	49 ヒガラ	以上65種
	33 コマドリ	50 ヤマガラ	

地質と化石(奥裾花渓谷)

奥裾花渓谷沿いには、いたるところに化石が見られます。この地域の地質は第三紀の中新世末～鮮新世の頃の堆積岩から出来ており、この堆積岩に埋もれた化石から、2000万年～1500万年ほど前は海底であったことが判ります。主な化石はアズメ沢一帯の貝類化石、観光センター付近の貝類化石、カニのハサミなど、また奥裾花の各地に見られるサンドパイプ(巣穴の化石)、千畳岩付近の波跡の化石、八チの巣状風化岩(写真)等があります。

